



薬小っ子スタンダード
当たり前のことを
当たり前ができる子に

薬師寺小だより

平成30年10月
下野市立
薬師寺小学校長
鈴木一恵



自分のことは
自分でする

やさしく



毎日の家庭学習

かしこく



正しい食習慣

たくましく



運動会

心を一つにして全力で勝負しました

今年は秋雨前線の影響でなかなか雨が上がり、実施できるかどうか大変気を揉みましたが、明朝には校庭の水も引き、予定通り実施することができました。保護者の皆様、地域の皆様の温かい御声援に包まれた薬小ならではの地域とともにある運動会となりました。

夏休み明けにもかかわらず、子どもたちはいち早く生活のリズムを取り戻し、全員参加の運動会となりました。御家庭や地域の皆様の見守りや励ましがあってこそその姿です。御支援に心から感謝申し上げます。

各学年の熱戦、名演技が繰り広げられ、感動的な場面がいっぱいの運動会でした。結果は僅差で白組の優勝となりましたが、終盤で紅組がじりじりと追いつけた姿は本当に見事でした。閉会式では「白組の勝利は紅組のおかげ」とお互いの頑張りを称え合いました。

P T Aや地域の皆様には紅白対抗大玉送りや専門部対抗綱引き、敬老玉入れ等に種目直前の呼びかけにもかかわらず、大勢の方々に御参加頂き大変感激致しました。薬師寺小ならではの伝統的は種目が地域の皆様との強い絆によって引き継がれていることを改めて実感致しました。

進行が順調で昼食時間をたっぷりとることができました。お子様を囲んで御家族の思い出の1ページを刻んで頂けたことでしょうか。

応援団パワースタイルでチームの心が一つに



応援団が勇ましく入場。紅白共に工夫を凝らした応援合戦でみんなの心を一つにしました。エール交換では互いの健闘を願いました。

演技の途中にも一生懸命に応援し、運動会を盛り上げました。両チームの闘志あふれる応援歌が校庭いっぱいに響きました。



1・2年生
最後まで頑張りました



<アンダー・ザ・シー>

3・4年生
連帯感が育ちました



<薬小、よっちょれ！>



<敬老玉入れ>



<薬小、タイフーン>

5・6年生
全力で演技しました



<Finally>

全学年種目
薬小っ子の心が一つに



<なかよし列車>



<棒争中2018>



<紅白リレー>

御協力頂いた
PTAの皆様



子どもたちとともに
頑張った薬小職員



当日の朝、職員は夜明け前から準備を始めました。保護者の皆様に会場の片付けを手伝って頂き本当に助かりました。ありがとうございました。

南河内児童合唱団のさわやかな歌声



9月15日(土)石橋中にて第9回下野市小中音楽祭が行われました。本校からは12名の児童が参加し、吉田西小の児童とともに「宝島」「明日を信じて」の2曲を熱唱しました。爽やかで力強い歌声にとても感動しました。保護者の皆様にはご多用の中、夏休みや9月の土曜日を利用した練習に吉田西小まで送迎して頂きました。ありがとうございました。

審査の先生から専門的な講評を頂きました。これを励みに来年も部員が増えることを期待しています。

「宝島」について

合同合唱ということで練習が大変だったでしょう。よく声が出ていて立派でした。少し地の声が聞こえたので高音を無理なく出せるようになるといいでしょう。しかし、元気に歌の意味が表現されていました。

「明日を信じて」について

歌詞のもつ意味を感じながら聞かせてもらいました。「みんなみんな～」のサビの部分の和音をもっと感じて歌えるとさらに豊かな響きになったでしょう。細かいリズムの部分、八分休符の扱いなど難しい箇所もありますが、南河内合同合唱団にずっと歌い続けて欲しい楽曲です。

下野薬師寺「灯明の会」 ～優しい灯に包まれて～



9月22日夕刻下野薬師寺歴史館で灯明の会が開催されました。油の原料のエゴマは6年生が植え付けや搾取のお手伝いをさせていただきました。手焼きの器の中で麻縄に染みこんだエゴマ油の炎が灯る様子は幻想的でした。

薬小職員も多数参加させて頂きました。古代の人々の生活を灯した明かりに包まれ心安らぎました。

会場の「下野薬師寺跡」は下野市で唯一「とちぎの百様」(栃木県民が大切にしたい自慢できる百の魅力：栃木県総合政策部)に選ばれています。

さらにこの度古刹「安国寺」が「薬師寺(通称下野薬師寺)」の寺名を復古されました。歴史に残る場面に触れることができ薬小としまでも嬉しいことです。子どもたちにはこれからも「薬師寺」の偉大さを胸に刻んで成長して行って欲しいと願います。

10月9日より後期スタート! 後半もお子様の健やかな御成長を願います

早いもので平成30年度も後半を迎えようとしています。半年とはいえ子どもたちの成長には目を見張るものがあります。しかし、成長の喜びとともにお子さんの様子や関わり方への心配や不安はどの学年になってもつき物です。私たち教員も同じような気持ちで日々子どもたちと接しております。

さて、近年、「愛着障害」と言う言葉を耳にするようになり、教員もそのことについての研修を行いました。家庭教育の一助になればと思い紹介致します。(和歌山大学米原好史教授による御講話より)

「愛着障害」とは多動をはじめとする「発達障害」と同じような行動が見られるため、見極めるのが難しいそうです。「愛着障害」は親子の愛情が不足しているからではなく、お子さんの特性や特徴と親の育て方が合わないというような相性の問題が原因となっているそうです。

また、乳幼時期の関わり方にも一因があると言えます。子どもが泣いたりむずかかったりしたとき、落ち着かせるためにビデオやスマホ、ゲーム等を与えてしまうと、親の愛情を感じ取る機会が減少してしまい、「愛着形成」(特定の人と結ぶ情緒的な心の絆)の妨げになってしまうそうです。

この「愛着形成」は子どもの成長にとって三つの大切な働きがあります。

一つ目は親やおとなは恐怖や不安から守ってくれていると気付くことです。

二つ目は親やおとなといると落ち着く、ホッとするという感情を抱くことです。

三つ目は親やおとなと離れた場所でのことを戻って報告すると、共感してもらえ、認めてもらえるという安心感からポジティブな感情や自己肯定感が育つことです。

このような関わり方が少ない状態で成長すると、感情の発達が未熟となり、人の感情を理解することが苦手となったり、人とのトラブルも多くなったりしてしまいます。もし思い当たる点がありましたら、小学生の時期にこの三つの働きを意識して接し方を見直してみると愛着の形成や修復につながります。

後期も御家庭がお子さんにとって安心で心癒やされる場所、認めてもらえるところであって欲しいものです。学校も同様にお子様の指導にあたって参りますのでどうぞよろしくお願い致します。



尚、本校では養護教諭を中心に教育相談を充実させております。スクールカウンセラーの来校も定期的にありますので、お子さんのことで御心配なことがございましたら、お気軽に御連絡ください。

読書の秋・・・読書意欲が高まっています

学校図書館では定期的に利用数の統計を行っています。4月～7月の利用数統計によりますと、昨年は3124冊でしたが、今年は5343冊でした。また、ジャンルの幅も広がっており、1文学・絵本 2自然 3歴史 4芸術 5技術の順でした。

読書は学力の基礎となりますのでこれからも読書にふさわしい環境作りを心がけて参りましょう。